

言葉で歴史と人とつながろう

Key words

ライフストーリー、アイデンティティ、ことば

1 活用する主な展示および資料

- 展示「証言映像」
- 紙芝居「海を渡った日本人」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校外国語科
- 全3時間（事前1時間、見学1時間、事後1時間）



3 目標


- be動詞や一般動詞の現在形や過去形の文の構造に着目して証言映像をみて、その箇所を抽出することで内容を理解することができる。【知識・技能】
- 証言映像から内容をまとめ、自分の考えを添えて紹介の仕方を工夫しながら語句や文を用いて発表している。【思考・判断・表現】
- 証言映像から聞き取った内容をもとに、英語で発表することで、日本で暮らす外国につながる生徒や友人に寛容になったり、自分の日本語を大切にしようとしていたりしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

【戦前】【戦中】【戦後】の日本人移民、展示「証言映像」からそれぞれのライフストーリーや経験に着目して生徒が学びを深める。日本での出身地、移住した場所、年代によって、生活様式の相違点があることを知る。また、日本人移民と一括りにする先入観に捉われず、一人の人の生き方から学ぶ姿勢が大切であることを生徒に気づかせたい。「証言映像」に出てくる英語、英語と日本語、英語の発音など、言語に着目して、それぞれ違いがあることに気づかせ、言語の多様性を知り関心を持つ姿勢を育む。手がかりとして生徒がわかりやすいbe動詞や一般動詞の現在形や過去形に注目することで、聞き取ることに集中でき、また英語科の学習を活かすことができる。

英語を学ぶことで、こうした時空を超えた人々となることができることにも気づかせたい。ソウジロウ・タカムラ氏の第二次世界大戦中の話から言語とアイデンティティについても学び、今後の外国語学習にも活かせるよう考えを深めさせたい。言語を通して働く、人とつながることの素晴らしさと葛藤を学び、今後の言語学習につなげる。「証言映像」には英語、スペイン語、ポルトガル語での解説や字幕があるため、外国語での発表にも役立つことができる。発表の中で、「証言映像」で使用されたフレーズを積極的に使用することで、フレーズをキャッチしようとする意欲につながる。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. “Why do you study English?” と質問をする。 2. 「海を渡った日本人」の紙芝居を読み、異なる言語の人々と生活していた日本人移民について学ぶ。 3. ソウジロウ・タカムラ氏の写真を見せ、説明をする。 <ul style="list-style-type: none"> ●タカムラ氏が第二次世界大戦中に通信傍受翻訳や書類翻訳をしていたことに驚いた。 ●プランテーションで日本からのお客さんのガイドをしていたとき、どんな気持ちだったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外で仕事をしたいと答える生徒がいた場合、理由をたずねる。  <p>(ソウジロウ・タカムラ氏記事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●言語を通して働く、素晴らしさと葛藤について考えさせる。
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資料館の証言映像【戦前】【戦中】【戦後】のそれぞれの時代から一人選んで、情報を集めよう。 <ul style="list-style-type: none"> ●英語の字幕や証言から、必要な情報を聞き取る。 *まとめるポイント 名前・移住した時代・移住した国・ライフストーリー 2. 印象に残った言葉・生き方・なぜ証言者を選んだのかについて話す。 3. 証言者が生きた時代背景や移住した理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ●もし自分が二世だったら、何を考えただろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「証言映像」から基本的な情報を聞き取り、メモを取らせる。 ●証言者の言葉と展示を照らし合わせて見せ、考えを深めさせる。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紹介する人物の情報をまとめ英語での発表を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ●メモに書いた○○さんの言葉を紹介したい。 2. 日系二世の人々の証言の共通点と相違点を見つけて話し合おう。 3. 自身の着眼点や興味を持った観点から日系二世について学んだことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ●日系二世は英語と日本語を使い分けていたけれど、戦争で苦労したと思う。 ●日系二世の人の英語を聞くと不思議な感じがする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●He is/She is を使って人の紹介を書き、発表させる。 ●移住した国に対する先入観や偏見についても、考えさせる。 ●日本語でまとめ、社会科の授業と教科横断的につなげていく。

6 学習後の姿

普段、教師による範読やALTの英語に慣れている生徒が、日系二世の英語を聞いて「英語の多様性」に触れる。その背景には生まれ育った環境があり、特に「戦争」によって彼らの言葉がアイデンティティを強く物語ることもあったことに気づき、日本で暮らす外国につながる生徒や友人の日本語に寛容になったり、自分の日本語を大切にすることになることを期待したい。

7 授業づくりのための参考資料

- 矢口祐人、森茂岳雄、中山京子著(2007)『入門 ハワイ・真珠湾の記憶』明石書店
- ディスカバー・ニッケイ(2011)「日系アメリカ人の個人史をつむぐ - ソウジロウ・タカムラ」
(<https://discovernikkei.org/ja/nikkeialbum/items/3899/>)